

society&business Tokyo25 journal 25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

威勢良い、昔の魚屋健在

加藤水産 加藤清さん 青梅市河辺町

青梅市河辺町の加藤水産は同地に店を構えて45年経つ。威勢の良

い、昔ながらの魚屋は、地域住民の台所を支えている。その原動力が、創業者の加藤清さん(80)。息子の学さん(52)に代を譲つても元気に店に立ち続ける。

まちに生きる

人生80年を「十分やった」と振り返る加藤さんは、檜原村神戸の出身。中学を出ると五日市の十一屋で、住み込みで働いた。毎日の御用聞きの中で商売のコツをつかんだ。仕事は苦になるどころか、御

が夜が明けける前に八王子の市場に出かけ、目利きし仕入れる。「自分で食べて不味ければ売らない」がモットー



「自分で食べて不味ければ売らない」がモットー

も自家製。となれば他市町からまとめ買いに来る客も少なくない。加藤さんが仕事と同一に力を入れたのが少年野球。五日市キングパワーズの初代会長を務め、西多摩

少年軟式野球連合会の理事を務めた。加藤さんらしいのが、優勝チームは上位の大会に進むが、準優勝チームはそこままで、悔しい思いをしてしまう。それなら準優勝チームを集めて大会を開けばいいと、自費で加藤杯を10年間開催した。

キルギス新大使を歓迎

羽村市キルギス親善友好団 羽村の堰など見学



キルギス新大使(右から5人目)を囲んで羽村市キルギス親善友好団の有志

キルギス共和国のエイキンベク・オソエフ大使が10月7日、羽村市を訪れ、同市博物館や羽村の堰を見学した。羽村市キルギス親善友好団が招いたもので、歴史と文化を理解し、観光を楽しみながら友好を深めた。

同市は「柔道グランドスラム大阪2018」で同国男子チームの事前キャンプを受け入れたことをきっかけに、19年6月に東京2020オリンピックのキルギス共和国ホストタウンに登録された。その後は中央アジアにある同国を紹介するスポーツや文化の交流事業を実施。友好を深めてきた。

オソエフ大使は妻と3人の子どもと訪れ、同友好団の代表を務める小宮国暉さん、田村

実さん、島田弘道さん、浜中庄次さん、幸枝さん夫妻、山田久代さん、並木心さんらがキルギス語で「サラーム(こんにちは)」とあいさつし、出迎えた。同市博物館では羽村の堰と玉川上水、世界一長い小説として知られる同市出身の中里介山の「大菩薩峠」などの説明を受けた。羽村の堰では、江戸時代前

期、玉川兄弟により極めて高い土木技術で築かれた玉川上水の話にも及んだ。午後には羽村市動物公園で動物たちと触れ合った。大使の訪問は小宮さんと羽村市・キルギス共和国友好親善ボランティア大使で歌手の三田りょうさん(ティチク)がお膳立て。関係者らは一様に、前大使に次いで、5月に着任したばかりのオソエフ大使とも友好の絆を築けたことに明るい表情を見せていた

寺は文化の発信地 創ろう地域の文化を人から歴史から

そうぜんじ便り—神無月

第84回土曜講座 (お茶代300円) 11月4日 13時~15時30分

- イス坐禅とお話し 住職 高井 正俊
- 講談「新平家物語」 講談師 菊地玉雲さん
- タクロンチーバ普及協会より

「小説『反骨』の朗読」、トーク 琴葉さん

「五日市憲法と千葉卓三郎の魅力について語り合う」

学生無料。予約不要。檀信徒以外の方の参加大歓迎。

臨済宗建長寺派 宗禅寺 羽村市川崎2丁目8-20 ☎042-554-1276

黒茶屋

あきる野市小中野167 ☎042-596-0129

営業時間
— 昼のお食事 —
午前11時~午後3時(受付)
— 夜のお食事 —
午後5時~午後7時(受付)
午後9時閉店

定休日 毎週火曜日
屋のみ営業 毎週月曜日

庵

あきる野市小川633 ☎042-559-8080

営業時間
— 昼のお食事 —
午前11時~午後3時(受付)
— 夜のお食事 —
午後5時~午後7時(受付)
午後9時閉店

夜の部(17時~19時受付)のお食事は、1営業日前までのご予約とさせていただきます。

定休日 毎週火曜日
屋のみ営業 毎週月曜日

令和5年11月の営業

お越しの際はホームページか電話でご確認ください。

WEB版東京25ジャーナルは毎週土曜日に配信します。

25区管内の政治、経済、社会、まちの話題を掲載

情報提供・広告の問い合わせなどは
題字下メールをご利用ください。